（様式２）

令和５年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和５年８月22日

国際交流推進センター長　殿

事業責任者（申請者）
所　　属　理工学部
職　　名　プロジェクト助教
氏　　名　Rami DERBEL

下記のとおり令和５年度佐賀大学研究者国際交流支援事業の実施結果について報告します。

1.国際研究集会名	JIT2023 symposium and workshop		
2.事業責任者 （申請者）	Rami DERBEL	3.所属・職名	プロジェクト助教
4.開催期間	令和５年７月７日　～　令和５年７月17日		
5.申請区分	一般		
6.参加者数 ※参加者名簿（別添）を添付	参加者数　51　名 内、外国人数　39　名、研究者数　22名、 学部学生数　17名、修士以上学生数　12名		
7.招待講師	所　属　佐賀大学 職　名　教授 氏　名　三島信雄 所　属　佐賀大学 職　名　教授 氏　名　後藤龍太郎 所　属　九州大学 職　名　教授 氏　名　末光和宏 所　属　LAVAL大学 職　名　教授		

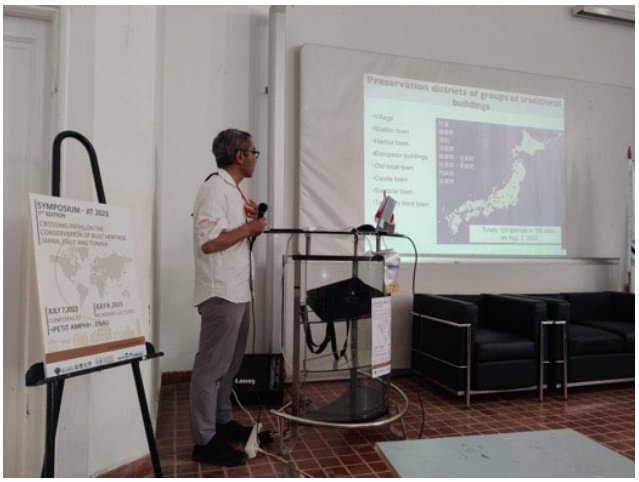
	氏　名　Saidi Habib 所　属　カルタゴ大学 職　名　教授 氏　名　Fakher Kharrat 所　属　カルタゴ大学 職　名　博士 氏　名　Olfa Mellouli 所　属　カルタゴ大学 職　名　博士 氏　名　Asma Gdira 所　属　カルタゴ大学 職　名　博士 氏　名　Ons Sekji 所　属　カルタゴ大学 職　名　博士 氏　名　Imen Ben Said 所　属　Palermo大学 職　名　教授 氏　名　Maria Luisa Germana 所　属　Palermo大学 職　名　博士 氏　名　Andréa D'Amore
8.支出額	金　額　200.000　円 【内訳】 謝金　150.000　円 旅費　円 消耗品費　50.000　円

9.国際研究集会の内容（実施の様子について、2～３枚程度写真をご提供ください）
（相手国・地域：　TUNISIA　　相手機関：　ENAU, University of Carthage） 7 月 7– 9 日 シンポジウムでは、日本、チュニジア、イタリアから 12 人の教授や博士が建築遺産の保存について講演した。4 つのセッションが開催された：持続可能な観光、革新的技術、再生デザイン、災害リスク軽減の 4 つのセッションが開催され、翌日には日本の大学教員による学術講演が行われ、3 日目にはチュニスの世界遺産メディナを訪問するフィールドトリップが企画された。 7 月 10-1 6 日 ワークショップでは、シディ・ブ・サイドの世界遺産地域における持続可能な観光に焦点を当て、末光先生から持続可能な建築について貴重な示唆を得ました。また、歴史的な遺跡への見学は、世界遺産の分類と遺跡の保存活動についての興味深い知見を提供しました。7 月 16 日の最終プレゼンテーションは好評であり、審査員の協力もありました。
10.事業実施による成果・今後の事業の発展等
JIT2023 では、各参加機関間での学術的な交流や文化的な交流が成功裏に進行しました。カルタゴ大学の学長と国際関係担当副学長との会合は、有益な話し合いと将来の協力の可能性を示しました。 7 月 17 日のフィードバック会議では、JIT の今後のセッションの改善に向けた建設的な議論が行われ、JIT2024（イタリア・パレルモ）および JIT2025（日本・佐賀）の計画が進行中です。 まとめとして、JIT2023 は、学術的な協力と文化的な交流を促進する上で有益で成功したイベントでした。佐賀大学 国際交流推進センターの温かいサポートがなければ、この取り組みを実現することはできませんでした。
11. 実施者アンケート
本事業の満足度（5（非常に良い）～1（非常に悪い））：5 支援経費は適切であったか（5（非常に適切であった）～1（非常に適切でなかった））：4 次年度以降も本事業の実施を希望するか：希望する・希望しない そのほかコメント：

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。

※写真は学内外へ発信する広報に活用するため、映っている方々からの使用許諾済みのものをお送りください。また、写真データ（jpg または png）の送付をお願いいたします。(Word 貼付けとは別に)

Regeneration Method for Japanese Traditional Wooden House
: A Case Study of G-House
Ryusei GOTO / SAGA UNIV


Preservation districts of groups of traditional buildings
SYMPOSIUM - JT 2023